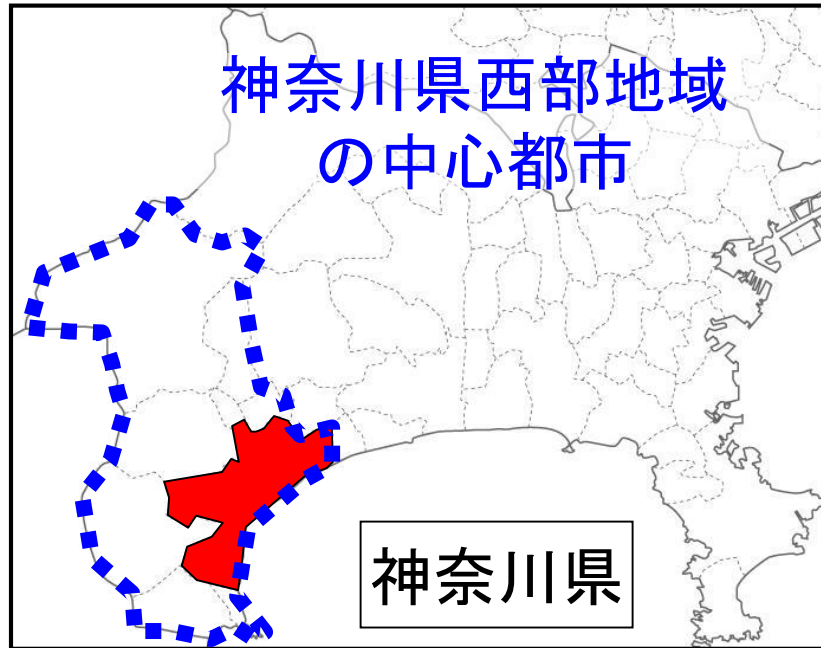


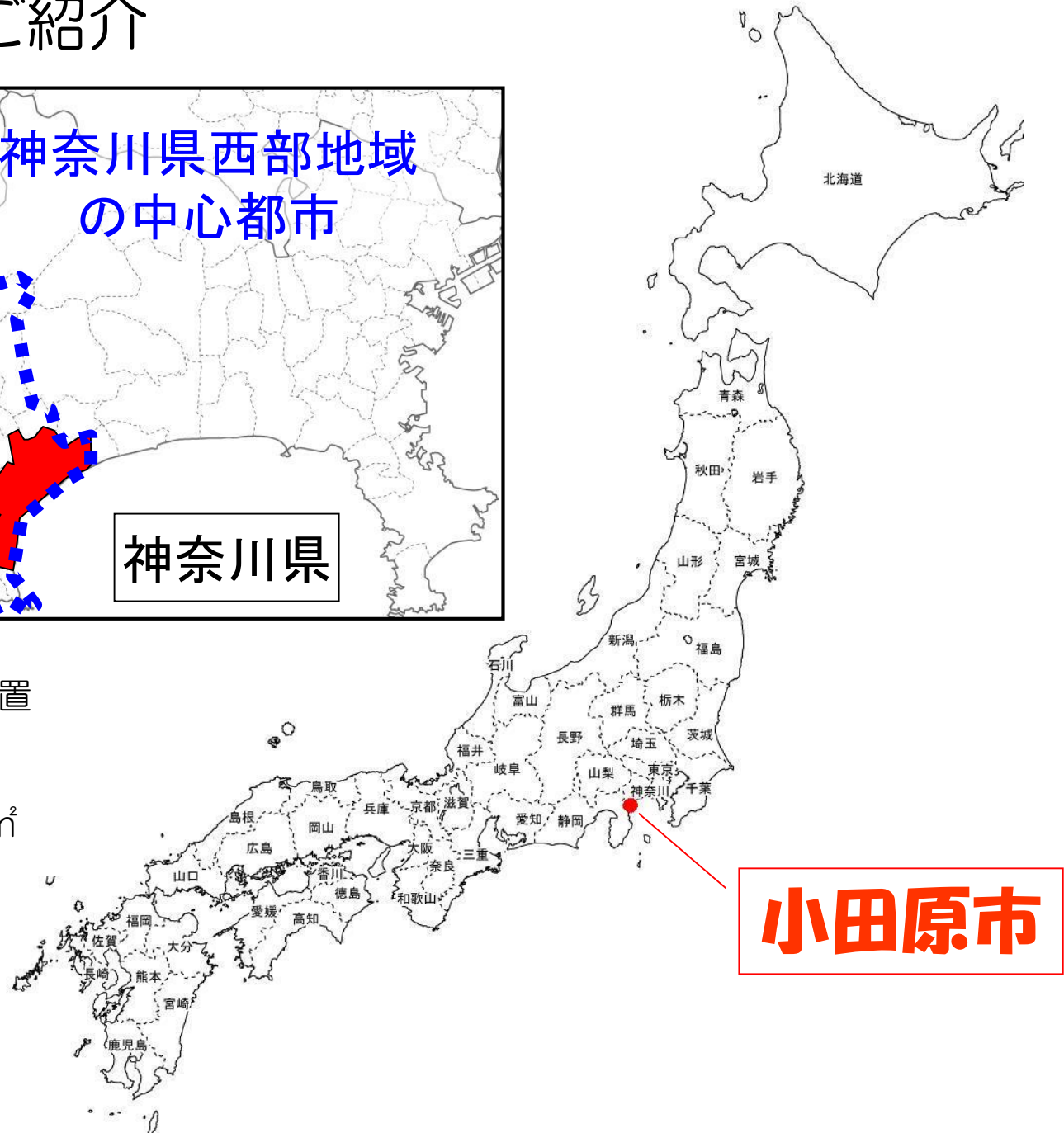
「荒地は荒地の力で・・・」

小田原市無尽蔵プロジェクト
の取り組み

小田原市のご紹介



- 神奈川県西部に位置
- 人口 約20万人
 - 面積 約114km²



靈峰富士



箱根外輪山

豊かな自然

母なる川 酒匂川



豊穰の海 相模湾





北条早雲



二宮尊徳

小田原で暮らした偉人の足跡



北原白秋



日本の電力王 松永安左エ門(耳庵)

小田原漆器



木象嵌



現代に引き継がれる「なりわい」

箱根寄木細工

小田原鋳物



小田原ちょうちん





かまぼこ



干物

多様な食文化



漬物



小田原おでん

資源は豊富にある

しかし、それが活用されていない

歴史的建造物、
別邸、人々が
暮らす街並み

ものづくり
匠の技

安全・安心な食

本当に価値のある 資源は眠ったまま

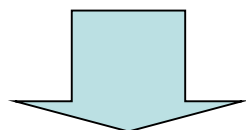
人々の生活ス
タイル

豊かな自然に
はぐくまれた山
林・畑、水田、
川、水路

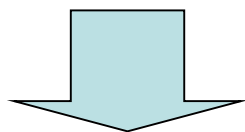
芸術・文化

豊富な人材・豊
富な市民活動

普段の暮らしの中にこそ、
優れた資源がたくさんある



これらを掘り起こし、磨き上げる
小田原の地域資源を活かしきる新たなアプローチが必要



では、誰が掘り起こすのか
誰が磨き上げるのか

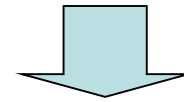
郷土の偉人・二宮尊徳の教え 「荒地は荒地の力で」



人々の希望から生まれる知恵は尽きることがない。

逆転の発想による「新しい公共」の考え方

企業を含む「民」の皆さん自らがエンジンとなって、自由な発想とノウハウによる事業に取り組んでもらい、行政が側面支援をしながら、新しい公共を組み立てていく。

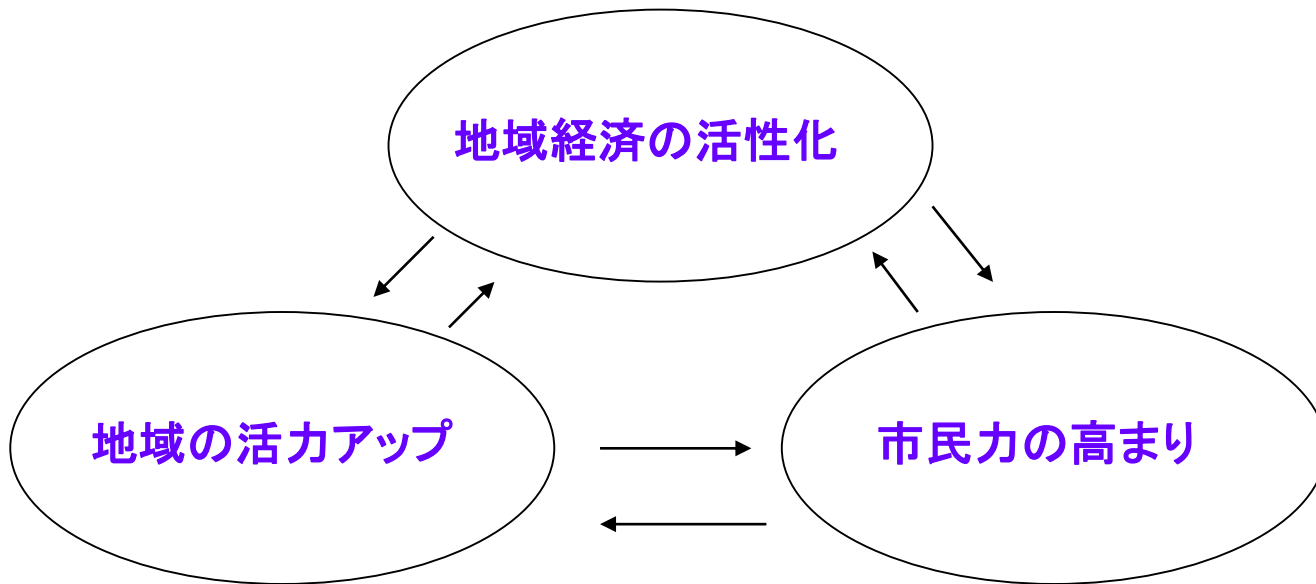


無尽蔵プロジェクト

無尽蔵プロジェクトの目指すもの(目的)

市民と行政が一体となり、無尽の英知を持って小田原の持つ特徴と潜在力を引き出し、新たな「小田原スタイル」を確立させることで、地域経済の活性化とまちの活力向上を目指す。

「地域経済の活性化と市民活力の向上」



無尽蔵プロジェクトの着眼点

小田原の地域資源を活かしきる
新たなアプローチ



民間がエンジンとなって、振興事業を立ち上げる



「無尽蔵」の手法

～ 荒地は荒地の力で ～

10の推進テーマ(インデックス)の設定

ウォーキングタウン小田原

食の小田原

文学のまちづくり

ものづくり・デザイン・アート

わがまち振興プロジェクト

環境(エコ)シティ

市民による芸術文化創造

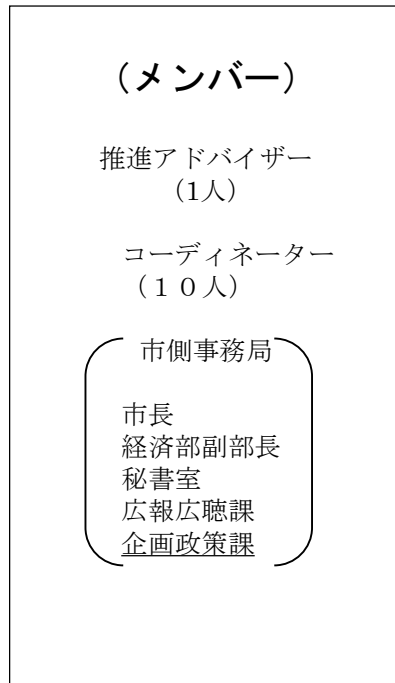
小田原ならではの住まいづくり

シネマとライブのまち

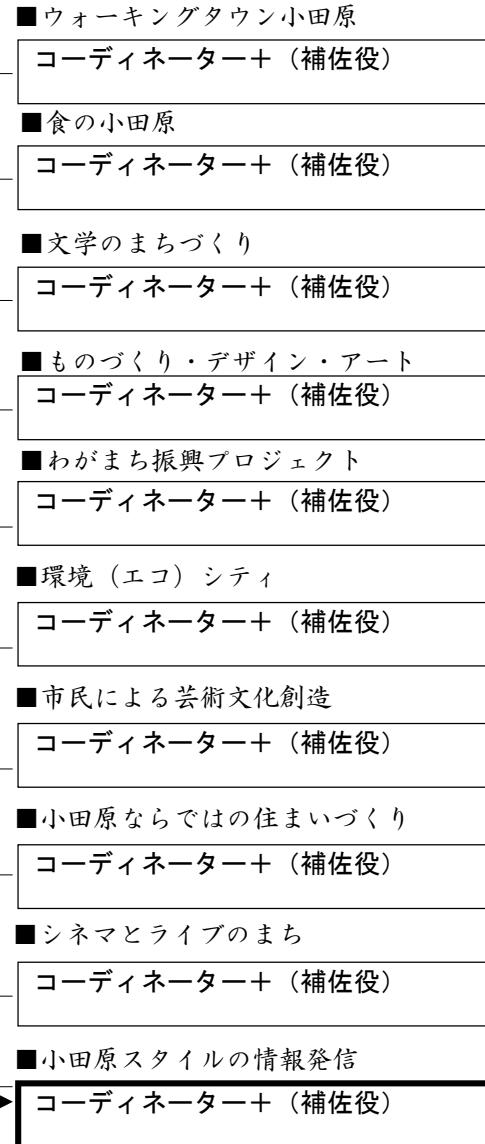
小田原スタイルの情報発信

無尽蔵プロジェクトの推進体制

【連絡調整会議】



【推進プロジェクト】



無尽蔵プロジェクトの構成団体など

■ウォーキングタウン小田原（1団体）

（補佐役）観光課
（コーディネーター）NPO法人 小田原まちづくり応援団

■食の小田原（11団体）

（補佐役）農政課
（コーディネーター）NPO法人 子どもと生活文化協会

■文学のまちづくり（5団体 1個人）

（補佐役）図書館
（コーディネーター）小田原の文学に光と風を送る会

■ものづくり・デザイン・アート（7団体）

（補佐役）産業政策課
（コーディネーター）社団法人 箱根物産連合会

■わがまち振興プロジェクト（1団体 13個人）

（補佐役）産業政策課
（コーディネーター）城山商店会

■環境(エコ)シティ（16団体）

（補佐役）環境政策課
（コーディネーター）おだわらエコカープロジェクト

■市民による芸術文化創造（3団体）

（補佐役）文化政策課
（コーディネーター）小田原市文化連盟

■小田原ならではの住まいづくり（2団体）

（補佐役）建築課
（コーディネーター）神奈川県建築士事務所協会県西支部

■シネマとライブのまち（2団体）

（補佐役）文化政策課
（コーディネーター）NPO法人 おだわらシネマトピア

■小田原スタイルの情報発信（1団体）

（補佐役）観光課
（コーディネーター）FM小田原

◎構成団体計 49団体(企業等を含む)、14個人 ※コーディネーター含む

無尽蔵プロジェクト 主な取り組み(平成23年度)

■ウォーキングタウン小田原

(主な取組) 清閑亭の実験的活用、清閑亭と周辺の地域資源を体験するツアーの開催など

(市の事業) ウォーキングタウンおだわら散策マップ作成事業など(予算額3,040千円)



■食の小田原

(主な取組) 教育ファーム「ゆめキッズガーデン」の整備、「片浦“食とエネルギーの地産地消”プロジェクト」など

(市の事業) 上記取り組みとの連携



■文学のまちづくり

(主な取組) 「おだわら文学散歩マップ」の配布など

(市の事業) 西海子サロン事業など(予算額400千円)



■ものづくり・デザイン・アート

(主な取組) 小田原もあ展の開催など

(市の事業) ものづくり・デザイン交流促進事業(コラボレーション展示会)など(予算額806千円)



■わがまち振興プロジェクト

(主な取組) 「白秋童謡の散歩道」案内看板の設置、地図及びエピソード看板の検討など

(市の事業) 「白秋童謡の散歩道」整備など(予算額300千円)



■環境(エコ)シティ

- (主な取組) おだわら環境志民フォーラムの開催など
(市の事業) 資源化啓発事業(廃棄物を利用した地域内循環促進事業)など(予算額570千円)



■市民による芸術文化創造

- (主な取組) イベントカレンダー発行、まちなか ぶらりミュゼ、市民文化祭オープニング開催など
(市の事業) 市民による小田原音楽フェスティバル開催事業など(予算額800千円)



■小田原ならではの住まいづくり

- (主な取組) 地域材の活用についての講演会の実施など
(市の事業) 小田原産木材を使った公共施設の建築モデル事業など(予算額15,600千円)



■シネマとライブのまち

- (主な取組) 小田原映画祭・小田原城ミュージックストリートの開催と連携、フィルムアーカイブの作成
(市の事業) 補助金、負担金の支出(予算額1,000千円)



■小田原スタイルの情報発信

- (主な取組) 片浦みかん、片浦レモンのブランド化に係るプロジェクト推進など
(市の事業) 情報BOXブログによる情報発信、ロゴマークの作成など



平成23年度 市予算額 22,516千円

(主要事例1) ウォーキングタウン小田原



黒田長成(元貴族院副議長)の別荘
明治末期から大正初期に建築。
国の登録有形文化財に登録された市所有の和風建築物
小田原を往来する人々との「交流」の拠点
コーディネーターのNPO法人「まちづくり応援団」が2
年間活用する
運営費用は自ら県の補助メニューを申請。

国の登録文化財「清閑亭」を活用し、能面展、
現代アートとのコラボ。観月会、まちあるき
検定など、数多くの催しを開催

入場料を徴収。経済的活用

(効果)

小田原の歴史や文化をPR

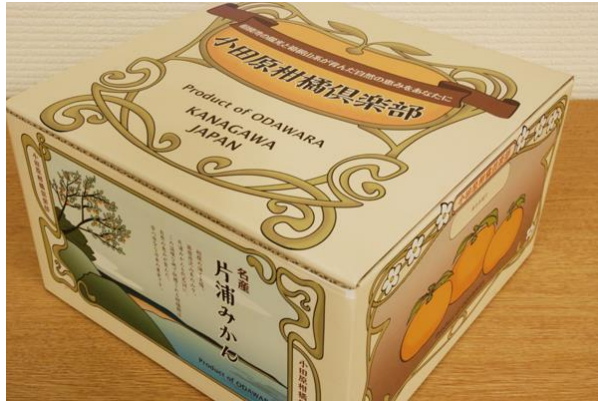
これまで全く活用していなかった施設に、市
内外から多くの方が訪れた

市の予算(税など)を全く使っていない

市民の力で効果を挙げた

小田原の他の街並みや施設などを回遊す
る拠点になった → **ウォーキングタウン**

(主要事例2) 小田原スタイルの情報発信



荒廃農地化が進む片浦地区の農家を支援したい。

二宮神社からの提案。
みかんのブランド化。おしゃれな小さめのオリジナルの箱。高級感を出し、大切な人用の「お歳暮みかん」として販売

片浦みかんプロジェクト

収益のうち必要経費だけ受け取り、農家の方に出来るだけ高い値段で支払い。
スーパーや企業に協力を要請。市がPR。

(効果)
市の予算(税など)を全く使わず市民の力で実績。市外から多くのオファー。新しいブランドの誕生。経済効果。



→小田原スタイルの情報発信

東日本大震災の被災地の復興に向けて - 「無尽蔵プロジェクトから復興支援へ」 -

無尽蔵プロジェクト

環境（エコ）シティ

➢ 海の再生を見据えた森林の再生



小田原ならではの住まいづくり

➢ 地域産木材を使った住まいづくりに向けた可能性の検討

市の森林・林業施策（おだわら森林・林業・木材産業再生協議会がコーディネート）

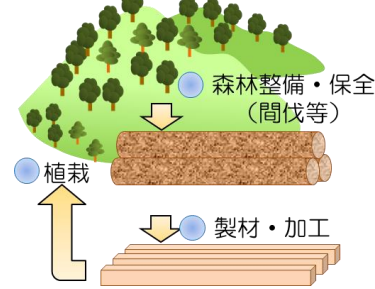


報徳の森プロジェクトの発足

- 「分度推譲」の「報徳司法」により、二宮尊徳の御縁のある相馬へ支援
- 「報徳司法」にのっとり、双方に利益のある関係で継続的な復興支援

小田原市

小田原の森林の再生



被災地

「木」による被災地支援



プロジェクト1（つなぐれ日本！報徳の樹）



小田原からクリスマスツリーを寄贈。賑わいとコミュニティを創出。
「つなぐれ日本！報徳の樹」

プロジェクト2（防寒対策用の内装板の寄贈）



小田原の間伐材を、相馬市へ全村避難している飯舘村の農園兼コミュニティ施設へ、**防寒用の内装材として提供。**

プロジェクト3（現在進行中：直売所の設置工事）



3.11オープン予定の相馬市の**仮設店舗・直売所の内装材を、小田原から提供！**



相馬市民ボランティアの手で材木を加工（やすり掛け）！



現在、**3.11直売所オープンに向け、相馬市民の手で工事中！**

無尽蔵プロジェクトの検証

無尽蔵プロジェクトを可能にした要素

- (要素1) 新たな価値創出に繋がる事業領域の設定
- (要素2) 事業の担い手としての資質
- (要素3) 様々な担い手の「組み合わせ効果」
- (要素4) 民ならではの自由な事業展開
- (要素5) 公共による「オーソライズ効果」
- (要素6) 公共資源の活用による立ち上げ支援
- (要素7) 市職員による「つなぎ効果」
- (要素8) 活動財源の獲得

(要素1) 新たな価値創出に繋がる事業領域の設定

【例1】

- 豊富な歴史文化資源、自然環境が、市内の広域にわたって存在
 - 首都圏から近く、多くの来訪客に来て頂けるポテンシャル
- その割には、回遊コースや案内表示、つなぐストーリーが不十分

⇒ 資源をつなぎ、回遊の楽しさを明確にした、歩いて楽しめる町に

⇒ 「ウォーキングタウン小田原」



【例2】

- 各種木工業や鋳物産業など、伝統的なものづくりが健在するも、昔ながらの意匠や商品領域からなかなか進化できない
- 一方で、小田原の魅力を感じて、若手の芸術家が小田原に住み始め、また都心から活動拠点を移してきた美術館などが増えている

⇒ ものづくりとデザイン・アートの分野をつなぐことで、双方にメリット

⇒ 「ものづくり・デザイン・アート」

(要素2) 事業の担い手としての資質

- それぞれの事業領域における活動歴
- 当該分野での活動に関する専門性
- 新しい取り組みに向けた活動意欲
- 事業を組み立てる力量
- 関連各分野へのネットワーク
- 小田原に対する深い郷土愛
- 行政に対する一定の信頼感



「然るべき担い手の存在が前提」

(要素3) 様々な担い手の「組み合わせ効果」

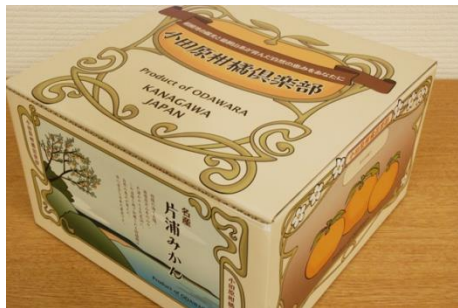
【環境(エコ)シティの場合】

- (1) 多彩な自然環境と課題に対応する様々な活動団体が存在
(森づくり、河川環境保全、街なか美化、低公害車普及、環境教育、…)
- (2) それが一つにまとまり、都市ブランドの形成に向かう
市内の16団体が一堂に会し、小田原のより豊かな環境づくりに向け、活動開始
- (3) 互いの活動現場を訪ね「こんな活動があったのか」「こんな熱心な人がいた」と感動
- (4) 手を携え、一緒にできる取り組みの構築に、ものすごいエネルギーが沸きあがった



「組み合わせと融合によるエネルギー」

(要素4) 民ならではの自由な事業展開



- 担い手団体による工夫を凝らした事業展開
⇒民ゆえのスピード、柔軟性、幅広いネットワークなど
- 協働であるものの、補助金による活動でない
⇒行政サイドの意思決定や要綱に縛られない活動の組み立てが可能
⇒事業で得た売り上げや収益は、更に拡大するための原資に利用可能



「公共に縛られず、民間の力をしっかり発揮」

(要素5) 公共による「オーソライズの効果」

- これまでは、団体が個々の手法で活動
(存在感の発揮は団体の既存の手法やネットワークに依存)
⇒「無尽蔵プロジェクト」として、市の肝いり事業群に位置付け
⇒公式にオーソライズされたという意識。注目をされる中で「やる気」の芽生え



「オーソライズ効果」で+αの活動意欲



(要素6) 公共資源の活用による立ち上げ支援

- 民間団体活動の蓄積に加え、公共の各種資源を最大限に活用。
(活動拠点としての公共施設(「ウォーキングタウン小田原」)における清閑亭など)
⇒ 広報手段としての各種媒体の活用(広報おだわら、HP、パブリシティなど)
⇒ 行政独自の予算事業との連動(イベント企画など)
⇒ 行政課題との連動による研究活動(木材強度研究など)
⇒ 行政の推進政策との連動(「小田原市食育推進計画」との連動など)



「公共」資源は、事業展開のアドバンテージ

(要素7) 市職員による「つなぎ効果」



- 新しい領域での連携、具体の事業化は民だけでは難しい
(手が回らない、立ち回りが難しい、調整役が果せない 等)
⇒ 諸団体と繋がり、共有できるテーマとスキーム設定、調整を行う役が必要
⇒ この「つなぎ役」を、市職員が担った。 ⇒ プロジェクトの成功を支えた。

* この役割を果たす職員の能力や資質、新たな領域に臨む意欲が極めて重要。

「黒子としての職員の活躍が不可欠」

(要素8) 活動財源の獲得

○ いずれの領域における事業展開にも、活動財源の確保は不可欠。
その手法は、大きく以下に分類できる。

- ① **新たな事業によって生まれる売上や収益**・・・事業テーマが**潜在マーケットに合致**
⇒ 「小田原スタイルの創造」における片浦レモンサイダーなど
- ② **国や県などの事業資金補助を獲得**・・・事業テーマが**公共的事業化ニーズに合致**
⇒ 「ウォーキングタウン小田原」における、邸園文化交流事業
⇒ 「環境(エコ)シティ」における、総務省「緑の分権改革」補助事業
⇒ 「食の小田原」における、県からの「食と再生エネルギー」関連補助事業 など
- ③ **実施における民間からの協賛金獲得**・・・テーマが**地域振興への民間意欲と合致**
⇒ 「環境(エコ)シティ」における、環境志民フォーラムへの協賛金
⇒ 「報徳の森プロジェクト」への協賛金・寄付金 など
- ④ **事業の一部を市事業で予算確保**・・・内容が**市(行政)の中で位置付け可能**
⇒ 「シネマとライブのまち」におけるイベント開催 など

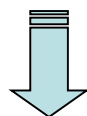


「小田原市」との協働事業であり、市として注力して取り組む

「**無尽蔵プロジェクト**」の位置づけ



埋もれた資産を、掘り起こし、磨く
市(行政)だけでは限界がある
まちづくりは行政だけのものではない
大事なことは市民と市との「役割分担」



これからのまちづくりの新しい形

「荒地は荒地の力で・・・」
～無尽蔵プロジェクト～

無尽蔵プロジェクトは 次なるステージへ



既存テーマの「自立」

より明確な地域振興事業への進化

他の分野における
「無尽蔵」的アプローチへの着手

教育
福祉
地域コミュニティ